

第9回県立高等学校編成整備に関する懇話会概要

開催した会議の名称	第9回県立高等学校編成整備に関する懇話会
開催日時	平成23年11月24日（木）09：00～12：00
開催場所	（所在地）〒900-8571 沖縄県那覇市泉崎1丁目2番2号 （会場名）沖縄県庁13階第2会議室
出席者	委員（懇話会会長）前泊委員 （懇話会会長代理）前新委員 上地委員、三村委員 事務局（総務課） 嘉数教育企画監、渡久山主任指導主事、桃原指導主事 （県立学校教育課） 山城班長、小成主任指導主事、金城指導主事
会議の公開・非公開	公開
傍聴者の人数	二人
会議の概要	1、開会（前泊） 2、事務局説明 （1）北部地区説明・意見交換会報告 （2）佐賀県太良高校視察報告 （3）前回（第8回）懇話会の概要 → 一部挿入し、欠席の委員がいるため次回（明日）に再度確認する。
	<p>3、＜主な意見＞前回からの継続</p> <p>前期計画について</p> <p>本部高校について</p> <p>○北部地区説明会では、計画に反対という意見があったということであるが、逆に、地域から対案はないのか。北部地区も少子化でこのままではいけないという認識は一緒であると捉えてよいのか。</p> <p>○北部からの流出には、保護者が経済的に厳しいが子どもの希望をかなえるために他地区へ出ているという状況もある。</p> <p>○地域からの意見などに対してどのように対応するのか。この場でどのような議論をするのか。新聞を読んでいるだけではその辺が見えてこない。例えば、ゴルフの活躍が学校の活性化に繋がっているという意見が出ているが、今後これを地域活性化にもつなげようとしているのか。どのような経済効果が期待できるのかなど、資料の提供を求めることができるのか。</p> <p>○本部は3クラスで定員割れしているが、2クラスに畳んだら維持存続は可能ではないか。</p> <p>○北山の理数科は、設置のときに積極的に取り組んだという経緯などから、いずれはコースにしていくということも視野に入れて存続させてはどうか。</p> <p>○基本方向で、既存の国際関連学科の充実を図っていくということが話し合われたので、名護に外国語を中心に置いた国際</p>

関連学科をおいてはどうか。中部のインターナショナルスクールを出た生徒にも対応でき、中南部への流出にも対応できる。

- 辺土名については、普通科として普通コースと環境コースということにしてはどうか。
- 本部高校については、名護から離れた本部を残す方が全体の発展につながると考える。経済的負担を小さくして教育効果を高めるとすることが望ましいと考える。県外から移住者も増えている現状もある。
- 地域ニーズのある大学進学拠点校ということにつながるのではないか。また、名護高校に中等教育学校をつくるということのも求心力があるのではないかと思う。
- 統合したら北山は普通科4クラスと想定しているがどうかと思う。本部町で生徒数の多い本部中の生徒は、北山より名護に向かうと思う。統合したら4クラスになるというのは見通しが甘いのではないか。生徒は名護に集中してしまうことが予想される。
- 連携型中高一貫校については、多くの学校との連携ではなく、学校を絞って連携を密にしたら、効果をあげることができるのではないかと考えている。そうすることで中・高の交流の密度が高まり、地域の中高連携に対する期待が高まると考えている。
- 他の地域についても言えることである。地域が学校と一体になって頑張ろうと取り組んでいるので、条件を付けて存続させてはどうか。
- 町をあげて本部高校に対する期待感が高まっているところなので、これを活用し連携型中高一貫教育校から併設型にしたらどうか。
- 町との連携もとれていることから、コミュニティースクールのようなものでもよいのではないか。
- 規模を縮小して残すにしても、国際関連学科やまたは、フューチャースクールなど特色をつくってインパクトのある学校づくりをしてはどうか。
- 方向性としては、本部高校を残した方が良いということになるかと思う。
- なぜ前期計画なのか。統合は中期でもよいのではないか。万が一統合したら経費が浮くわけだから、浮いた部分は統合した学校の充実に使うということは示してはどうか。
- 財政面だけではなく、教育予算に充てるということを示すことが、理解を求められる要因である。
- 本部高校は、存続させる方向である。その方法として、中高一貫の充実や学級減の方法等があるのではということである。

辺土名高校について

- 理数科自体が不人気で、定員割れがあるということであったが、名護に移しても同じではないか。
- 北山の理数科と名護の理数科を分けて考えた方がよい。北部に理数科が必要かどうかが論点になる。今は、北山の理数科を名護に移すということで反発が大きいと思う。
- 名護の理数科設置がいいのかどうか。普通科と理数科が併置された学校で、違いがわかりにくいということで理数科への進学者が減っている現状があるということもあった。
- 過去5年で中南部の理数科へ約110名いるということだが

	<p>これは、理数科を希望してではなく、中南部へ出たいということだと思う。そういうことであれば、北部に中高一貫の超エリート校をつくる方がよいのではないか。</p> <p>○「北山高校の理数科を名護高校へ設置換えし、名護高校の理数科とする。」ではなく「名護高校へ理数科を設置する」ではどうか。</p> <p>○今、小・中学校でもキャリア教育が行われていることで、職業に対する意識を持つ生徒が中南部の高校に流出していると考え。北部に理数科や国際関連学科のような魅力ある学科ができれば生徒は戻ってくると思う。現在、本部から約半数流出しているというが、これは学校側の取り組み次第で生徒は戻ると考える。</p> <p>○辺土名に環境科（理数科）をおくためには、名護（本校）にも理数科をおく必要があるのではないのか。</p> <p>○辺土名は普通科にして、名護の理数科の職員が授業にいったらよいのではないか。環境科をおくには理数科が有利なのはあるが、地域のニーズは普通科で、普通科を希望する生徒のことを考えると普通科にすべきではないか。</p> <p>○分校の辺土名を理数科とするのなら本校にもないといけない。</p> <p>○今の考え方からすると、辺土名に理数科をおくとなると名護にも理数科をく必要がある。名護に理数科が置かれるのだから北山の理数科を吸収合併しようということになるのか。</p> <p>○理数科はどうなのかということを行ったが、名護の理数科が見通しがあるのならその案でよいのではないか。</p> <p>○北山のシンポジウムで話し合われた、北部に貢献できる医師を育てる理数科ということは、名護に理数科を置くことでも、医師を育てるという意味では北部という視点から理解してもらえるのではないかと思うので、今の案で進められるのではないか。</p>
	<p>4、事務局より諸連絡</p> <p>○次回、第10回は明日、最終回予定の第11回は12月16日（金）9:30～12:00に予定。</p>
	<p>5、閉会</p>
<p>問い合わせ先</p>	<p>担当課 沖縄県教育庁総務課教育企画班（渡久山・桃原） 電話 098-866-2705 FAX 098-866-2710</p>